

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	・(理念の共有と実践) 法人理念を毎日唱和し、指名された職員が一日の目標を発表しているが、グループホームの特徴を踏まえた事業所独自の理念は作成されていない。	事業所の特徴に合った独自の理念を掲げて実践していける事。	グループホームの特徴に合った独自の理念を作成し実践する取り組みの話し合いを職員で行う。	6ヶ月
2	23	・(思いや意向の把握) 一人ひとりの表情や行動から思いを聞き取ろうと努力はしているが、聞き取った思いや意向、様子の記録の内容にわかりにくいところがある。	日頃の様子や利用者や家族の声を聞いて知り得た意向を明確に記録しながら、利用者の思いを職員間で共有が出来るようにする。	①知り得た意向をわかり易くわかるように明確に記録する。 ②利用者の思いや意向を職員間で話し合い共有できる。	6ヶ月
3	26	・(チームでつくる介護計画とモニタリング) 計画書の期間で見直しや状況把握が十分ではなくその内容が次の計画に繋がっていない。	本人や家族の状況の変化をみて、適時に介護計画を見直して利用者がより良く暮らすために必要な内容となること。	本人や家族の状況の変化をみて適時に状況把握を行い、介護計画の見直しをして利用者がより良く暮らすために必要な内容となる介護計画を作成する。	6ヶ月
4	36	・(1人ひとりの尊重とプライバシーの確保) プライドを損ねないように排泄の声掛けは耳元で伝えるようにしているが、トイレのオムツの置き場で利用者の名前がむき出しになっている。日常的に職員が利用者の名前を「ちゃん」付けて呼んでいる場面がみられる。	トイレのおむつに置き場の利用者名をカーテン等で隠すなどの工夫を行い、利用者にも最もふさわしい呼び方を行う。	トイレのおむつに置き場の利用者名をカーテン等で隠したり利用者個人名が分からない工夫を行う。利用者にも最もふさわしい呼び方をするように話し合いみんなで徹底する。	6ヶ月
5	49	・(日常的な外出支援) 外出支援は個人の希望にそって希望があれば天候の良い時に外出できるよう支援しているが、重度化に伴い外出を好まない利用者が増えてきている。	気分転換などを目的とした日常的な外出方法を工夫して屋外に出る機会を作る。	気分転換などを目的とした日常的な外出方法を工夫して天候の良い日は重度化した方でもベランダや駐車場空地で楽しみを持って過ごせるようにみんなで話し合い取り組む。	6ヶ月

6	54	<p>・(居心地よく過ごせる居室の配慮)          本人の使い慣れた家具や好みものを配置するようにしているが、収納家具が少ないときは空き箱を筆筒の上に無造作に積んで収納に利用しているため利用者の暮らしが見えてこない。</p>	<p>収納に利用する空箱の側面に布や飾り紙を貼る等、アイデアと工夫で利用者にとってより快適な部屋になる。</p>	<p>居室で居心地よく過ごしていただくために収納に利用する空箱の側面に布や飾り紙を貼る等、利用者にとってより快適な部屋にするアイデアと工夫をみんなで話し合う。</p>	6ヶ月
---	----	--	--	---	-----

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。